

令和2年度第1回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和2年7月6日(月)13:00～15:30

2 場所 市民交流プラザふくちやま 4階会議室401
評価委員会委員及び福知山公立大学の一部教授は Zoom での参加

3 出席者

委員	(リモート参加)青山委員、大久保委員、菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	岸本課長、井上係長(途中退席)、倉主事
福知山公立 大学	井口学長、矢口副学長、山本事務局長、西田教授、内田GM 外賀AM、荻野AM、矢野、神代 (リモート参加)岡本教授、倉田教授、倉本教授、井上教授、鄭教授

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	委員長・職務代理選出	互選により青山公三委員が委員長に、委員長指名により大久保正明委員が職務代理に選出。
2	【議題(1)】 令和2年度公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針について	事務局から【資料1】、【資料2】、【資料3】 【資料4】、【資料5】、【資料8-1】 【資料8-2】、【資料9】、【資料10】、【資料11】 により説明。
3	【議題(2)】 公立大学法人福知山公立大学2019年度及び中期目標評価(4年終了時)に係る業務実績評価について	福知山公立大学から【資料7】により概要説明。
4	【報告事項(1)】 2019年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について	福知山公立大学から【資料14】、【資料15】により概要報告。
5	意見交換・質疑等	(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> ■ 次年度入試では、志願者層・志願地域が地域経営学部と情報学部で分かれてくるため、募集戦術について、どこをターゲットに志願者を集めていくのか数字で出てくると思うので分析をいただきたい。 ■ 地域枠を設けているように三たん地域の受

		<p>験生に素通りされないよう、両学部特性・人材養成目的が異なるので、福知山公立大学の魅力をしっかり受験生・入学者確保の観点から出していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 30%の採択率であったというのは非常に重要なポイントだと思うので、今後、福知山公立大学の特色を出していく1つの取り組みとしていただきたい。事務方の編成が科研費を獲得するのに重要な役割を果たしていることは、先生方にも魅力的であり、非常に特色ある大学の要素となるので、続けていただきたい。 ■ 達成度100%を超える評価を昨年度までは「4」と理解していたが、2019年度における法人の評価の説明では達成度100%が「4」とすることは大きな評価基準の見直しに当たるのではないかと。
--	--	---

5 次第

(1) 開会挨拶 岸本課長

(2) 議題(1): 令和2年度公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針について

【資料1】、【資料2】、【資料3】により、令和2年度公立大学法人福知山公立大学の業務実績に関する評価方針を確認した。

また、令和2年度は中期目標期間の最後の事業年度の前々事業年度及び中期目標の期間の終了時に見込まれる業務の実績評価を実施する必要があるため、【資料4】の「公立大学法人福知山公立大学に関する中期目標評価実施要領(案)」を説明。

(青山委員長)

事務局から説明いただいた「中期目標評価実施要領(案)」について、承認ということによろしいか。

(全委員)

異議なし。

【資料5】、【資料8-1】、【資料8-2】、【資料9】、【資料10】、【資料11】により業務実績評価の進め方を説明。

【資料12】、【資料13】により財務諸表の承認手続きを説明。

(3) 議題(2): 公立大学法人福知山公立大学令和元年度及び中期目標評価(4年終了時)に係る業務実績評価について

(青山委員長)

ただいまから福知山公立大学へのヒアリングを開始する。

まずは、大学より業務実績報告書について、概要説明をお願いしたい。

大学より【資料7】業務実績報告書により概要説明

(委員)

- 法人からの説明の中で「これまで大きな事業を実施してきたが、その評価が今までの自己評価に表れていない」とあったが、どのような事業が評価不足として挙げられるか。

⇒地域経営学部が発足して4年経つが、1年目に新しいカリキュラムを作ったことが挙げられる。カリキュラムの見直しは毎年行っているが、情報学部開設に向けて2年前から見直し作業に入り、地域経営学部のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの見直しを全学挙げて実施してきた。

また、学長裁量経費を活用し大学の紀要という形で「地域経営学とは何か」を毎年、発表してきた。地域経営学部は全国の国公立大学の中で福知山公立大学のみしかないので、カリキュラムの見直しを行うためには「地域経営学とは何か」という前提の議論をする必要があった。

(委員)

- 大学にとってカリキュラムの見直しは重要なものであり、そのような大事業を実施してきたことが自己評価の中に表れてこなかったということで理解した。

(委員)

- 副学長から説明のあった今年度の大学の評価基準について、資料があれば提供いただきたい。

⇒委員会終了後に提供する。評価方針は国立大学法人の評価基準を基に作成した。

(委員)

- 新学部入試について、志願者が定員の2.3倍と想定より少なかったとの説明だが、大学のホームページを見ると実際は欠席者がいて、受験生と合格者で言うと倍率は2倍を割っており、学部初年度としては厳しいのではないかと思う。
- 新学部設置認可が2か月遅れたことにより、募集行為に制限がかかっているため倍率が低かった大きな理由となるが、これを学部特性とすると、この倍率ですつといくと聞こえてしまい低いと考える。法人の分析と次年度入試に向けた方針があれば教えていただきたい。

⇒委員のご指摘のとおり、入試倍率はそのまま推移すると厳しく感じている。分析としては、推薦入試は認可の遅れの影響を受けたこと、初年度ということもあり、予備校の入試難易度予測が想定していたよりも難しく出てしまったことが挙げられる。また、地域経営学部の志願者は、地方の中小都市からの志願者が多いが、情報学部の志願者は都市部が多かったため、次年度以降の募集戦略を練り直していきたいと考えている。

(委員)

- 2つの学部で志願者の取り合いをしているのではと危惧していた。
- 次年度入試では、志願者層・志願地域が地域経営学部と情報学部で分かれてくるため、募集戦術について、どこをターゲットに志願者を集めていくのか数字で出てくると思うので分析をいただきたい。
- 当然、評価委員会として、過去の私学時代の定員割れの状況には戻ってほしくないため、募集活動は気にしている。
- 福知山公立大学開学初年度のように多くの志願者が集まると、次年度の揺り戻しがあるので、倍率は3～4倍くらいで安定して推移することが良い。
- 地域枠を設けているように三たん地域の受験生に素通りされないよう、両学部の特性・人材養成目的が違うので、福知山公立大学の魅力をしっかり受験生・入学者確保の観点から出していただきたい。
- 【資料7】の9ページにおいて、科学研究費助成事業の応募率100%、採択率が30%とずいぶん努力されているが、科研セミナーやフォーラムなどを実施したから採択率が上がったという理解でよろしいか？

⇒セミナーの実施もあるが、学内的な審査も試みたということ、そして全員が応募するという意識があったことから採択率が上がったと認識している。

(委員)

- 科学研究費の採択は、研究成果の表れ、先生方のモチベーションにもなり、間接経費もおりてくるので外部資金を取るというのは重要な視点であるので、引き続き努力いただきたい。

⇒補足すると、FDで科研費の獲得、公立大学協会のセミナーの報告などを実施してきた。そして事務職員が実際に書類を出す前に全ての申請書をチェックするなど事務部門のサポート大きく影響している。学内締め切りを早めに設定して、細かいところをチェックしたことが採択率を上げた1つの要因になっていると思う。

(委員)

- 申請率100%というのは、他の大学の先生が科研費を出す際に協力研究者として名を連ねるということも含めての理解でよろしいか？

⇒少なくとも各自1人は代表者として申請していることになっている。分担者も含めるともっと数は多いと思う。主体的に代表者として1人1つは応募することを徹底させた。

(委員)

- 全員が代表者として申請していることに感銘を受けた。今の説明で安心したのは事務職員がバックオフィス業務で採択に対して支援をしてきたこと。
- 研修を受けたり、外部の情報収集はどの先生もされているので、それだけで採択率がここまで上がるとは思えなかったので、適切に事務局職員を評価いただき、適切な配置や間接経費の適正配分をしていただきたい。
- 他大学では、研究費の配当基準としては必ず科研費に申請することが挙げられており、申請しなければ配当0という厳しいルールとなっているところがある。

(委員)

- 事務方のチェック能力というものは非常に重要で、アメリカのリサーチセンターではドクターレベルの人たちが事務職としてリサーチの申請をする事務局として働いている。
- その人達がきめ細かくチェックをして、提出する体制を整えている。
- 30%の採択率あったというのは非常に重要なポイントだと思うので、今後、福知山公立大学の特色を出していく1つの取り組みとしていただきたい。事務方の編成が科研費を獲得するのに重要な役割を果たしていることは、先生方にも魅力的であり、非常に特色ある大学の要素となるので、続けていただきたい。

(委員)

- 【資料6】の課題3について、昨年度の評価委員会でも教務の事務システムの納品が遅れたことに対して、課題として指摘事項としていた。事務局の人員不足もあったということだが、15のシステムは全て納品されて、運用されているか。

⇒システムは導入して、現在運用している。

新型コロナウイルスの影響で、全ての授業をZoomやWebClassというシステムを用いた遠隔講義で行っている。講義はZoomで行うが小テストや成績の採点やシラバス、アンケートはWebClassを使っているが、現時点ではスムーズに運営しており、講義が上手くいなくて困っているという苦情は教員・学生から出ていない。システムの導入は遅れたが、コロナ禍の中では上手く運用できている。

(委員)

- 福知山公立大学が着実に伸びていることが確認できるので、うれしく思っている。
- 三たん地域の受験者について教えていただきたい。志願者が47人で入学者26人ということだが、合格者が何人いたのか教えていただきたい。
- また、一般入試について三たん地域の志願者、合格者、入学者の人数も教えていただきたい。

⇒一般入試の受験生の人数は、受験生25人、合格者7人、入学者6人であり、推薦入試については、受験生22人、合格者20人、入学者20人であった。

(委員)

- 評価について、先ほどの法人の説明の中で【資料4】の5段階評価の基準を数値化されたのはとても分かりやすいが、2019年度の評価は数値化された基準で実施し、それより以前の評価は違う基準で実施していることになると考える。
- 達成度100%を超える評価を昨年度までは「4」と理解していたが、2019年度における法人の評価の説明では達成度100%が「4」とすることは大きな評価基準の見直しに当たるのではないか。
- 2019年度の評価を大学の基準で実施するとしても中期目標・中期計画に関わる過去の3年分の評価基準と今年の評価基準が変わることになったら中期目標評価が難しいと考えるが、大学の考えはどうか。

(委員)

- 大学にお答えいただく前に、評価委員会は今まで大学の提出してきた自己評価の中に数字が入っておらず、「なぜこの評価になるのか」という指摘をしてきた。そして、数字を出してもらった上で評価をしてきた。
- 今回、見直された内部の評価基準については、今までの評価基準では「3」という評価だったものが、「4」という評価になったものが多いのではないかと今回の業務実績報告書を見るとあったように考える。
- 評価委員会は今までの評価基準で評価をすべきだと考えている。

(委員)

- 仰るとおりであるが、【資料4】の評価に関する記載では、2ページ(3)「評価委員会による評価」において、「A」とする基準等が数値化されていて、平均値に影響を与えることとなる。
- 評価の見直しに合理性はあるが、4年目の2019年は新しい評価基準で実施すると、過去の3年分は違う評価基準の中で実施してきたため、4年分の中間評価をどのように実施すべきか。
- もし4年分の中間評価も新しく定められた評価基準に基づくとしたら4年目を重視することになると思うが、評価の考え方の整理が必要になると考える。

(委員)

- 【資料4】の評価実施要領については、事務局から案をお示しいただいたが、この評価基準は例年の評価と変わりはないか？

(評価委員会事務局)

- 例年の評価実施要領と変わらない基準である。

(委員)

- 評価委員会としてどのように評価をしていくかを今後の議論で決めていくことになると思うが、大学側から説明はあるか。

⇒大学の中でどのように評価をするかを明確にした評価基準とご理解いただき、これに基づいて、評価委員会がどのように判断するか別問題であるとする。

(委員)

- 9ページの「第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置について」中に運営会議を経営会議に組織替えをしたとある。これは複数学部体制となり、意思決定をスムーズにするためにお考えになったと思うが、構成員と役割の違いを教えてください。

⇒今までの運営会議は、規程上決定権を明確に持つ性格ではない全学的な委員会であった。そのため、複数学部となり、全学的な意見をまとめるために規程上、全学的な意見を調整し、最終的に確定する場所として経営会議と名付けて、規程を作り運営をしている。

構成員は地域経営学と情報学部の両学部長と学科長、情報学部教授、学長、副学長、事務局長に事務局が加わっている。

(委員)

- 今後、複数学部となったことで環境が変わると思われるので、スムーズな運営に繋がってもらえるように努力いただきたい。

(委員)

- 経営会議は、定款に記載されている経営審議会とは別物であると思うが、なぜ学内会議で「経営」という名前を付けられたのか。

⇒法人の組織として経営審議会があるため、名称を迷ったが、大学の将来計画など重要なことを最終的に意思統一する場、大学そのものの経営に関わる基本方針を決めることと同時に設置者と協議して最終的には実施できる決定になる必要があり、大学の意思決定が基本的な役割であるが、設置者と協議する準備をする意味合いも込めて、「経営会議」という名称をつけた。

(委員)

- 教育研究審議会と機能分化しているのか。今の説明では機能が被るように考えるが。
- ⇒教育研究審議会は、外部委員が入るが経営会議に外部委員は入っていない。

(委員)

- 【資料7】の12ページ「就職内定率が開学以来4年連続100%を達成している」ということだが、福知山公立大学に入学した学生で卒業生を出したのは2019年度が初めてだと思うが、この中には私学時代の学生も含まれているという理解でよかったですか？

⇒含まれている。

(委員)

- 卒業生の中で32人が北近畿地域に就職したとあるが、どのような企業に就職したか教えていただきたい。

⇒就職先に関して、公務員が5名・病院や福祉法人が3名、その他は民間企業である。上場企業としては、8社に入社している。

(青山委員長)

評価をする中で、質問があれば質問表をお送りいただいて、評価していただくということでお願いしたい。今の意見交換を踏まえて、7月13日(月)までに評価結果を事務局までにお送りいただいて、それを踏まえて、7月22日(水)に評価委員会としての評価案としてまとめたいと思う。

(4) 報告事項：2019年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について 福知山公立大学ヒアリング

(青山委員長)

ただいまから福知山公立大学へのヒアリングを開始する。
まずは、大学より財務諸表について、概要説明をお願いしたい。

大学より【資料14】【資料15】より概要説明

(青山委員長)

8月6日(木)の第3回評価委員会でも時間があるということなので、その時にまた意見・質問等々を伺いたいと思う。

6 その他
特になし

7 閉会

以上